

## 対馬産ニセモンキマメゲンゴロウの記録

あき たかつみ さかい よしあき  
秋田勝己・境 良朗

ニセモンキマメゲンゴロウ *Platambus convexus* Okada, 2011 は、北海道江別市産の標本をもとに命名記載された流水性のゲンゴロウである。

記載後、本州にも分布することが確認され、青森県（北野, 2012）、秋田県（佐藤 2020）、福島県（吉井, 2012）、神奈川県（藤原ほか, 2020）、愛知県（萩原, 2020）から記録されている。

秋田は、2022年7月に対馬を訪れ、この種を採集した。また、秋田の情報をもとに境は追加個体を得たので、記録しておきたい。

4♂2♀、対馬市上対馬町舟志（舟志川）、10. VII. 2022、秋田採集；6♂4♀、同地、28. VII. 2022、境採集；2♂2♀、対馬市上県町飼所（飼所川支流）、28. VII. 2022、境採集

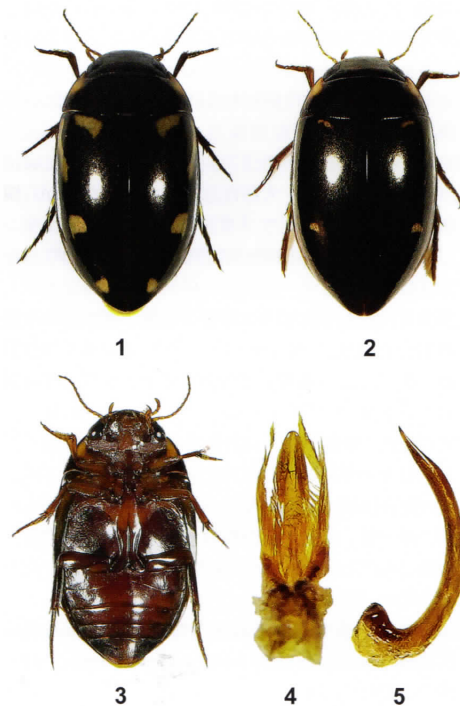


写真1-5. 対馬産ニセモンキマメゲンゴロウ♂ —— (1: 斑紋が最も発達した個体; 2: 斑紋が最も縮小した個体; 3: 腹面; 4: 交尾器（背面）; 5: 中央片（側面）

いずれも、樹林におおわれた薄暗い溪流で、岸部の樹木の根が絡んだ部分や落ち枝周辺に沈んだ枯れ葉の下などから得られた。同時にモンキマメゲンゴロウ *P. pictipennis* (Sharp, 1873), キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculata* (Kamiya, 1938), キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus niponensis* (Kamiya, 1939) を得た。

秋田の手元にある北海道産や福島県産の標本と比べると、上翅黄色斑がやや縮小傾向にある(写真1, 2)。また体長は、7.0 ~ 8.9 mm で、Okada (2011) の 7.79 ~ 8.91 mm (三田村ほか(2017), 中島ほか(2020) は、これを踏襲して 7.8 ~ 8.9 mm としている) に比べて、幾分小型の個体が多い。Okada (2011) および三田村ほか(2017) の図や秋田の手元にある北海道産標本の♂交尾器と比較すると、中央片を側方から見たときの湾曲が弱く、同先端部を背面から見たときにやや細い(写真4, 5)。複数の交尾器を検したが、この特徴は安定しており、北海道や本州北部の個体群とは区別が可能である。

今回、この種が対馬でも得られたことから、朝鮮半島や九州にも本種が分布する可能性が高い。今後の探索が望まれる。

文末ながら、比較用標本を提供いただいた堀繁久氏、平澤桂氏に感謝したい。

#### ○参考文献

- 藤原大貴・内船俊樹・大澤啓志, 2020. 三浦半島から採集されたニセモンキマメゲンゴロウ(甲虫目: ゲンゴロウ科). 横須賀市博物館研究報告(自然科学)(67): 33-35.
- 萩原涼太, 2020. 愛知県でニセモンキマメゲンゴロウを採集. 月刊むし(596): 58.
- 北野 忠, 2012. 青森県におけるニセモンキマメゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ(5): 27-28.
- 三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸, 2017. 水生昆虫①ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック. 178pp. 文一総合出版, 東京.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 352pp. 文一総合出版, 東京.
- Okada, R., 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra* (N. S.) 1(1): 31-38.
- 佐藤福男, 2020. ニセモンキマメゲンゴロウ秋田県での記録. 月刊むし(598): 12-13.
- 吉井重幸, 2012. 福島県におけるニセモンキマメゲンゴ

ロウの記録. ふくしまの虫(30): 65-66.